

研修報告書No. 29

所 属： 県外大学病院研修医

2015年3月2日、高知龍馬空港を利用して、〇〇病院へと向かいました。〇〇病院の第一印象は、まっしろな新しい病院。事務手続きを終えて中を案内していただくと、優しい色使いやレイアウトなどであふれた院内にとっても温かな気持ちになりました。翌日から実際の勤務が始まりましたが、まず驚いたのは、外来や病棟の患者さんの年齢層の高さでした。誤嚥性肺炎、尿路感染症、高血圧、糖尿病・・・などを経験させていただきました。また、患者さんが退院して社会に戻るところをどのようにしていけばいいのかも一緒に考えさせていただきました。一口に社会に戻るといってもリハビリや家族や施設の協力、地域の介護のマンパワーなどがどれくらいあるかにより患者さんが戻ることのできる社会の居場所が変わってきます。さらに、限られた選択肢の中では家族のマンパワーが退院先の決定にも大きな影響を与えており、家族を支える社会資源の大切さを感じました。

僻地医療研修として□□診療所でも研修を行わせていただきました。◇◇市は東部地域の海岸側、□□診療所は西部地域でも四万十川の上流にあり、△△駅から単線を運行する電車に乗っての大移動となりました。□□診療所では外来を見学させていただきました。その中では、運転できる高齢の患者さんが運転できない患者さんを外来と一緒に連れてきてくださっている様子もみられました。支え合いの大切さを感じる一方で、支えてくれている患者さんが動けなくなった時には共倒れになってしまうという危機感を感じました。また、外来で先生が一人一人の患者さんにかかる言葉の温かさから地域の大黒柱として働いてこられた先生の大きさを感じました。そして、地域を支えてこられた先生の感じておられた重圧は私には想像できないほどの大きなものだったのではないかとも思いました。

病気で苦しんでいる人に、元気になって笑顔になってもらうことが医師としての一番の願いです。しかし、医師は人がこの世に生を受けて生まれてくるのを助け、年月が経って出てくる体の不調をなんとか人生という旅を続けられるように調整し、旅を終えるところを見届ける役割も持っています。人生という旅の主人公は患者さんで、医師はその過程に助け寄り添うことしかできません。その中で大切なのは人と人とのつながりであり、思いやりの気持ちだと思います。私が研修で働いて、見させていただいた医療は、患者さん一人一人のことを皆が一丸となって考えて支えている温かい医療でした。そして患者さんも自分を支えてくれている人たちへの思いやりを忘れていない温かい医療でした。今回の研修で感じた温かい医療ができる医師になれるよう今後も研鑽を積んでいきたいと思えます。初期研修の最後に地域医療研修をおこなうことができるととても良かったと思えます。

最後になりましたが、お世話になりました高知再生医療機構の皆様、〇〇病院の皆様、□□診療所の皆様、〇〇地域の皆様、□〇地域の皆様、高知県を旅する間に会いお世話になった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。